

## 【1】 藍野大学短期大学部の教育研究上の目的に関すること

### 1. 学校法人藍野大学 教育理念

#### “Saluti et Solatio Aegrorum”

「病める人々を医やすばかりでなく慰めるために」

この教育理念は、病気を医学的に治療すると同時に患者様の心に慰めを与えることが医療人の理想であるという考えに立っています。ここでは医学的な治療という意味で「医やす」という表現を使っています。この教育理念は、医療人が心がけなければならない目標であり医療の基本を示す精神であると言えます。

### 2. 藍野大学短期大学部 教育目標

看護師は、医師による診断を基に患者が患う病の治癒を支援するのみならず生活習慣の改善を促す重要な役割があります。これは、個々の患者の身近にいる看護師こそができる役割であり、医師ができることではありません。

看護教育とは、医療を施すだけの人を送り出すのであってはならず、患者の共感を得て病の治癒の支援ができる人材を育成することにあります。そのために、医療や看護について十分な知識を持つことはもとより、患者に寄り添い共感を得ることができるよう十分な教養をもつ学生を教育します。さらに、病に罹らない社会・生活環境を整える手立てを考え、実行する能力を持った人材を育てます。

### 3. 各科の教育研究上の目的

#### 【第一看護学科】

第一看護学科では、卒業後に看護師として従事することを前提に、准看護師から看護師へのステップアップをするために、専門的知識と技術の修得、生命の尊厳を基盤とする倫理観、豊かな人間力を養い、ヒューマンケアを中核としたより実践的な看護の知識技能の修得を図ります。また、チーム医療の中で看護の役割を果たすことができる人材育成を目指します。

#### 【第二看護学科】

第二看護学科では、卒業後に看護師として従事することを前提に、看護に関しての専門的知識と技術の修得、生命の尊厳を基盤とする倫理観、豊かな人間力を養い、ヒューマンケアを中核としたより実践的な看護の知識技能の修得を図ります。また、チーム医療の中で看護の役割を果たすことができる人材育成を目指します。

#### 【専攻科（地域看護学専攻）】

専攻科（地域看護学専攻）では、卒業後に保健師として従事することを前提に、地域・企業・学校などの活動の場において、あらゆる世代やあらゆる健康レベルの個人、家族、さらに集団、組織を対象とした公衆衛生看護活動を展開できる人材育成を目指します。

#### 4. 藍野大学短期大学部 3つのポリシー

##### (1) ディプロマ・ポリシー（卒業の認定、学位授与に関する方針）

藍野大学短期大学部では、医療や看護の十分な専門知識を身につけているのみならず、医療環境の変化に対応してゆくことのできる柔軟性を持ち、さらに教育理念にあるように「医やすばかりでなく慰める」ことができる人間性の豊かな医療人を育成することを目指しています。

具体的にはカリキュラムに従った学修の結果、以下の項目を満たし、かつ所定の単位を取得した者に対して卒業を認定します。

- ①看護師あるいは保健師として十分な専門知識と技能を身につけている。
- ②患者あるいは対象となる個人やその家族等と共感を持って接することができて、円滑なコミュニケーションをとることができる。
- ③社会人として、また医療人として豊かな人間性と高い倫理性を備えている。
- ④自己のスキルアップ、新しい知識の修得について意欲的であり、その方法について理解している。
- ⑤修得した知見を他者に対して論理的に説明できる。

##### 【第一看護学科・第二看護学科】

- ①チーム医療の一員として同僚や他職種の人と協調性を保ちつつ積極的に関わることができる。
- ②医療・保健・福祉における社会資源の知識を持ち、活用方法を考えることで支援システムについて知ることができる。

##### 【専攻科（地域看護学専攻）】

- ①地域の健康課題を明確にし、その課題解決に向けて計画・立案する方法を理解している。
- ②地域に存在する社会資源の把握及び活用方法を修得し、必要な支援システムや資源について考えることができる。
- ③公衆衛生看護の対象となる個人・家族・集団・組織に対して、対象別の実践方法を理解している。
- ④関係機関・関係職種との協調性を保ちつつ積極的に関わることができる。

(2) カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

藍野大学短期大学部は、育成する人材像をディプロマ・ポリシーで定めています。その目標を達成するために以下の方針で教育課程の編成がなされています。また、学修効果を高めるために、アクティブ・ラーニングなどの教育方法を積極的に取り入れます。

- ①基礎分野・専門分野等、保健師助産師看護師学校養成所指定規則に則り、適切に科目を配置する。
- ②基礎科目、専門科目の比率を適切に定める。
- ③各科目の履修年次、履修順序を最も効果的に学修できるように配置する。
- ④豊かな人間性を涵養するため、幅広い教養教育を行う。
- ⑤論理的な思考や、それに基づいたプレゼンテーション能力を身に付ける。
- ⑥専門職業人としての自覚と能力を養うために、臨地実習を重視する。

各科目については、定期試験等により必要となる知識、技能が身についているかを判定します。

実習科目は、看護師・保健師としての専門知識及び技能、協調性、コミュニケーション能力等について評価基準を基に、ディプロマ・ポリシーで掲げる能力が身についているかを評価します。

### (3) アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

#### 【第一看護学科】

##### I. 「大学教育を通じてどのような力を発展・向上させるのか。」

第一看護学科では、卒業後に看護師として従事することを前提に、准看護師から看護師へのステップアップをするために、専門的知識と技術の修得、生命の尊厳を基盤とする倫理観、豊かな人間力を養い、ヒューマンケアを中核としたより実践的な看護の知識技能の修得を図ります。また、チーム医療の中で看護の役割を果たすことができる人材育成を目指します。

この目的のために入学後は、以下の能力の向上を図ります。

- ①高いコミュニケーション能力を持ち、深い洞察と倫理観に基づく人間関係を形成する能力
- ②身につけた知識と技術をさらに高度なものとし、自発的に目的意識を喚起できる能力
- ③自ら考え、なにごとにも挑戦し、最後まで粘り強くやり遂げる能力

##### II. 「入学者に求める能力は何か。」

上記 I. 「大学教育を通じてどのような力を発展・向上させるのか。」を踏まえ、以下の意欲・資質を備えた者を入学者として求めています。

- ①相手と気持ちを分かち合い、人の痛みがわかる感性を持ち、かつ自分の意見を発信して、人との関係を大切にできる
- ②准看護師の基礎的な知識と技術を有し、高い専門性を持ち、努力を惜しまず自己研鑽できる
- ③明確な目標をもち、その実現に向かってひたむきな努力を惜しまず、最後までやり遂げることができる

高等学校衛生看護科または准看護師学校養成所で修得しておくことが望ましい科目として、国語の読解力および言語運用能力（国語総合）と数学Ⅰの計算能力があげられます。

また、入学後の学修を円滑にするために基礎看護と人体と看護の科目を修得しておくことが望まれます。

##### III. 「培ってきたどのような能力をどのように評価するのか。」

第一看護学科の選抜試験では、以下の評価を行います。

- ①一般選抜入試では、上記 II. 「入学者に求める能力は何か。」で掲げた科目を中心とする学科試験により基礎学力（知識、思考力、表現力）を評価します。

前期日程においては、小論文と看護専門科目により評価します。また、後期日程においては、看護専門科目と面接により評価します。

- ②推薦入試では、小論文および面接により意欲、資質などを評価します。
- ③社会人入試では、看護専門科目および面接により意欲、資質などを評価します。

面接においては、上記 II. に関する認識や態度、特に①で求められる意思疎通、協調性、自己表現能力、共感能力、知性と感性のバランスの取れたコミュニケーション能力などについての資質、それらを身に付ける意欲などを評価します。面接における参考資料として、出身校等の調査書や志望理由書を活用します。（評価全体に占める面接の比率は約 25%）

## 【第二看護学科】

### I. 「大学教育を通じてどのような力を発展・向上させるのか。」

第二看護学科では、卒業後に看護師として従事することを前提に、看護に関しての専門的知識と技術の修得、生命の尊厳を基盤とする倫理観、豊かな人間力を養い、ヒューマンケアを中核としたより実践的な看護の知識技能の修得を図ります。また、チーム医療の中で看護の役割を果たすことができる人材育成を目指します。

この目的のために入学後は、以下の能力の向上を図ります。

- ①高いコミュニケーション能力を持ち、深い洞察と倫理観に基づく人間関係を形成する能力
- ②身につけた知識と技術をさらに高度なものとし、自発的に目的意識を喚起できる能力
- ③自ら考え、なにごとにも挑戦し、最後まで粘り強くやり遂げる能力

### II. 「入学者に求める能力は何か。」

上記 I. 「大学教育を通じてどのような力を発展・向上させるのか。」を踏まえ、以下の意欲・資質を備えた者を入学者として求めています。

- ①相手と気持ちを分かち合い、人の痛みがわかる感性を持ち、かつ自分の意見を発信して、人との関係を大切にできる
- ②看護学を学ぶために必要な基礎学力を有し、看護に関心を持ち、努力を惜しまず自己研鑽できる
- ③明確な目標をもち、その実現に向かってひたむきな努力を惜しまず、最後までやり遂げることができる

高等学校で履修しておくことが望ましい科目として、国語の読解力および言語運用能力（国語総合）と英語の表現力（コミュニケーション英語 基礎および I、II）、数学 I の計算能力があげられます。また、入学後の学修を円滑にするために、生物基礎の科目を履修しておくことが望まれます。

### III. 「培ってきたどのような能力をどのように評価するのか。」

第二看護学科の選抜試験では、以下の評価を行います。

- ①一般選抜入試では、上記 II. 「入学者に求める能力は何か。」で掲げた科目を中心とする学科試験により基礎学力（知識、思考力、表現力）を評価します。

前期・中期日程においては、小論文と選択科目 1 科目（英語コミュニケーション英語 基礎および I、II、数学 I、生物基礎）により評価します。また、後期日程においては、国語総合と面接により評価します。

- ②推薦入試では、国語総合および面接により意欲、資質などを評価します。
- ③社会人入試では、国語総合および面接により意欲、資質などを評価します。

面接においては、上記 II. に関する認識や態度、特に①で求められる意思疎通、協調性、自己表現能力、共感能力、知性と感性のバランスの取れたコミュニケーション能力などについての資質、それらを身に付ける意欲などを評価します。面接における参考資料として、出身高等学校の調査書や志望理由書を活用します。（評価全体に占める面接の比率は約 25%）

## 【専攻科（地域看護学専攻）】

### I. 「大学教育を通じてどのような力を発展・向上させるのか。」

専攻科（地域看護学専攻）では、卒業後に保健師として従事することを前提に、地域・企業・学校などの活動の場において、あらゆる世代やあらゆる健康レベルの個人、家族、さらに集団、組織を対象とした公衆衛生看護活動を展開できるよう、入学後は以下の能力の向上を図ります。

- ①高いコミュニケーション能力を持ち、深い洞察と倫理観に基づく人間関係を形成する能力
- ②身につけた看護学をもとに、公衆衛生看護の視点をもって、保健師として自発的に目的意識を喚起できる能力
- ③自ら考え、積極的な姿勢で、最後まで粘り強くやり遂げる能力
- ④社会情勢などをみて、物事を客観的に見極め、保健師の役割について考えられる能力
- ⑤地域の医療・保健問題の調査研究や問題解決に主体的に取り組める能力

### II. 「入学者に求める能力は何か。」

上記 I. 「大学教育を通じてどのような力を発展・向上させるのか。」を踏まえ、以下の意欲・資質を備えた者を入学者として求めています。

- ①対象者と気持ちを分かち合い、人の痛みがわかる感性を持ち、かつ自分の意見を発信して、人との関係を大切にできる
- ②看護学に関する基礎学力を有し、公衆衛生看護に関心を持っている
- ③自己研鑽に努力を惜しまず、最後までやり遂げることができる
- ④探求心を持ち、主体的に研究に取り組むことができる

入学後の学修を円滑にするために、また、各看護師養成校で修得しておくことが望ましい科目として、看護学（特に公衆衛生看護学）の基礎知識・看護技術があげられます。

### III. 「培ってきたどのような能力をどのように評価するのか。」

専攻科（地域看護学専攻）の選抜試験では、以下の評価を行います。

- ①一般選抜入試では、上記 II. 「入学者に求める能力は何か。」で掲げた教科を中心とする学科試験により基礎学力（知識、思考力、表現力、文章表現力）を評価します。

前期日程においては、看護学と小論文により評価します。また、後期日程においては、小論文と面接により評価します。

- ②推薦入試では、小論文および面接により意欲、資質などを評価します。
- ③社会人入試では、小論文および面接により意欲、資質などを評価します。

面接においては、上記 II. に関する認識や態度、特に①で求められる意思疎通、協調性、自己表現能力、共感能力、知性と感性のバランスの取れたコミュニケーション能力などについての資質、それらを身に付ける意欲などを評価します。面接における参考資料として、出身校等の調査書や志望理由書を活用します。（評価全体に占める面接の比率は約 30%）